

# 令和7年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立 吉川小学校
-----	------------

## 1 学校教育目標

心豊かに たくましく 学びを深めあえる子の育成 ～ ふるさとを愛し 夢を育む 学校づくり ～

## 2 本年度の重点目標

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、豊かな学びを継続する。
- (2) 心の通い合う学校づくりを通して、心豊かな人間性の育成に努める。
- (3) 健やかな心と体を育て、たくましく生き抜く力を身に付けさせる。
- (4) 認め合い、支え合う特別支援教育の推進
- (5) キャリア教育の推進
- (6) 組織力を高め教職員の勤務の適正化に向けた取組を推進し教育活動のさらなる充実を図る。

## 3 自己評価結果

( アンケート結果による達成基準 : 4 よくあてはまる 3 大体あてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない )

※アンケート結果の3と4の肯定的評価を計上している。

【 A : 達成している(アンケート等の結果80%以上達成) B : 概ね達成している (70%~80%以上達成) C : あまり達成していない (60%~70%以上達成) D : 達成していない (60%未満) 】

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・学校教育目標、本年度の重点目標の達成に向け、最重点評価項目を設定し、教職員の皆さんは、児童が主体的に学び、体験し、健やかに成長するよう、日々時間を惜しまず取り組まれている。また、児童・教職員・保護者を対象にしたアンケートをもとにして、日々の実践を振り返り、課題を把握して、次年度に向けた改善策をそれぞれに考えておられることから、自己評価方法は、おおむね「適切」であると考えられる。  
 ・ただアンケートの結果で、4「よくあてはまる」と3「大体あてはまる」の合計ポイントが80%以上あれば単純に「A : 達成している」と評価してよいか疑問である。このことについて、次年度当初に検討しておいてはどうか。  
 ・各評価項目で大きなウエイトを占めている「否定的評価」の項目は、今一度「取組（達成）状況」→「要因の抽出」→次に繋がる具体的な「アクションプラン」を整えて取り組んで頂きたい。アクションプランは、「P・D・C・A」サイクルの視点で評価できるよう整理してもらいたい。

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

評価項目	今年度の最重点評価項目 (1つまたは2つ)	取組(達成)の状況		評価	総合評価	改善の方策
		対象者	評価指標・評価方法等 (質問紙調査を実施)			
学習指導	○学習意欲の向上を図り、基礎的基本的な知識・技能を習得させる。  ○本校研究主題並びに「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を研究・実践するなど、授業改善に努める。	児童	○とことんスタディー(単元内自由進度学習)やフリースタイルプロジェクト(個人総合)、日々の児童主体の学習形態に、進んで取り組むことができたか。 ⇒児童用アンケートで80%を達成する。⇒(2025年度は84%) ○基礎基本の知識・技能の習得と自分で学習を進める力をつけることができたか。 ⇒児童用アンケートで70%を達成する。⇒(2025年度は85%)	A	B	・学習者主体の授業づくりに対する教職員の意識改革が着実に進んだことは、本年度の大きな成果だといえる。一方で、個別最適な学びを支える新たな指導スキルの習得や環境構築に向けて、より実践に即した継続的な研修の充実が求められている。 ・自ら計画を立て、自分のペースで学習を進めるスタイルに意欲的に取り組む児童が80%を超えた。一斉教授型からの転換期において、児童は大人の予想を上回る柔軟さで新しい学びに対応しており、自律的な学習者への成長が随所に見られる。 ・教職員、児童の肯定的な評価に対し、保護者アンケートの結果(授業の理解度:75%、主体的な取り組み:59%)は低位に留まっている。この乖離を埋めるためには、学校からの情報発信のあり方を再考するとともに、「子どもたちが自らの言葉で学びの充実感を語る姿」を家庭へ届ける仕組みづくりが、現状打破の鍵となると考えている。
		教職員	○とことんスタディー(単元内自由進度学習)やフリースタイルプロジェクト(個人総合)などの新しい学習形態に、学習者主体の授業づくりについての意識改善に取り組むことができたか。⇒教職員用アンケートで80%を達成する。⇒(2025年度は100%) ○タブレット等を活用し、基礎基本の知識・技能の習得と自分で学習を進める力をつけさせることができたか。⇒教職員用アンケートで80%を達成する。⇒(2025年度は94%)	A		
		家庭や地域との連携	○子どもたちは授業をわかりやすいと話しているか。 ⇒保護者用アンケートで80%を達成する。⇒(2025年度は75%) ○とことんスタディー(単元内自由進度学習)やフリースタイルプロジェクト(個人総合)、学習者主体の授業づくりに、子どもが進んで取り組むことができたか。 ⇒保護者アンケートで80%を達成する。⇒(2025年度は59%)	C		
道徳教育	○子どもの多様な意見を受け止めたり、お互いの意見を尊重したりする温かい授業づくり	児童	○道徳の授業の中で、道徳的課題について自分の考えを持ちたり、意見の交流をしたりすることができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は90%)	A	B	・授業では、じっくりと自分の考えや意見をまとめるための手立てとして、ワークシート等を使った。その後グループや学級で意見を交流することで、様々な考えに触れ、多面的に物事を見ることが出来た。 ・話の内容を理解することで、自分の考えを深めることができると考える。そのために、ICTを使い映像や動画で具体的にとらえさせた。内容理解が苦手な児童にも効果的であった。 ・人権参観や冬休み人権週間への取組については、たくさんの協力をいただいたが、家庭で道徳教材を読んだり子どもと一緒に話し合ったりする機会は少ない結果となった。少数ではあるが道徳の教科書をもとに親子で意見交換したという意見もあり、学校側から家庭での取組を勧めるような具体的な課題の提示が必要だと感じた。
		教職員	○子どもが多様な意見を言える授業づくりに取り組むことができているか。 ○子どもの道徳的価値に関する考えや、成長を捉えることができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は97%)	A		
		家庭や地域との連携	○家庭で道徳教材を読む機会を設け、親子で考える教材などに取り組む。 ⇒保護者参加率80%を達成する。⇒(2025年度は63%)	C		
人権教育	○人権の啓発を通じた、多様性の尊重と自尊感情の育成	児童	○自分や友達の良い行いに目を向け、自尊感情を高め合うことができたか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は92%)	A	A	・異学年交流や学級指導など普段の学校生活の中で、教師が常に人権意識をもって接することが、一番の子どもたちの成長につながると思う。それぞれの人権意識をより高めるために、引き続き研修も積極的にこなしていく。 ・今年度の教育事業(スマイル学級)では、「子どもを地域で育てる」をひとつのねらいとし、地域指導者の方々の協力を得ながら活動をおこなった。また保護者も一緒に参加できる内容も取り入れ、つながりを意識した有意義な活動ができたように思う。 ・よかわっすスマイル参観での授業は事前に研修をおこない、より子どもの学習が深まるよう取り組んだ。また保護者と一緒に考えることで、子どもの考えを広げ大人も人権について考える場となった。
		教職員	○子どもの良い所を見つけ、それを子ども達に伝えることができたか。⇒(2025年度は100%) ○同和教育、人権教育などの研修を受講し、人権意識を高める。 ⇒年度内に2回以上受講する。⇒(2025年度は88%)	A		
		家庭や地域との連携	○よかわっすスマイル参観、冬休み人権週間に参加したか。 ⇒保護者出席率80%以上を達成する。 よかわっすスマイル参観(2025年度77%)、冬休み人権週間3年生以上(2025年度86%)	B		
特別支援教育	○一人一人の多様な教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	児童	○友達一人一人の違いを大切に、互いに助け合える人間関係ができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は95%)	A	A	・児童の共通理解を図る教職員による月一回の定期的な会議を開催した。特に支援を要する児童については、必要に応じてケース会議を開催し、関係職員、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等が参加し、多面的な視点から具体的な支援方法の検討を行った。教職員アンケートでも、児童理解や支援の方法について肯定的な回答が多く、日頃の情報共有の成果が表れている。 ・医療機関、福祉機関、教育センターなど、外部機関との連携の充実を図っていききたい。特に、支援が長期的に必要な児童については、関係機関と継続的に情報を共有し、学校だけでは対応が難しいケースについても、児童を真ん中に据えた支援が行えるよう調整していく。 ・保護者には、特別支援教育に関する相談窓口や関係機関の情報提供を行うとともに、家庭での子どもの様子や困り感を共有できる機会の確保に努めた。今後も保護者が気軽に相談できる体制や場づくりをさらに工夫し、学校と保護者が共に子どもの学びと生活を支える環境づくりを進めていきたい。
		教職員	○定期的に全職員での児童の情報交換と適切な指導・支援方法の共通理解を図ることができたか。 ⇒気になる児童の様子、支援の方法等を記録に残す。⇒(2025年度は94%) ○児童一人一人の特性に応じた指導方法の充実に努めたか。 ⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は100%) ○関係機関、医療・療育機関、中学校・園、保護者と連携を図り、よりよい支援の充実に努めたか。⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は88%)	A		
		家庭や地域との連携	○児童は一人一人の違いを大切に、互いに助け合える人間関係をつくろうとしていると感じるか。 ⇒保護者アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は88%)	A		

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価		
妥当である	過大評価である	過小評価である
○		
○		
○		
○		
○		

・先生方の学習者主体に向けた新たな授業スタイルの取り組みを大いに評価する。ただ児童のアンケートでは、「やや否定」「否定」が「15、17%」と一定を占めている。特に、「否定」とした児童が、それぞれのアンケート項目で「4%」ある。これらの要因を分析し、対策をたて、きめ細かいフォローをして頂きたい。  
 ・自ら計画を立てて取り組める子とできない子の差が広がりに思えるのではないかと。また、学習形態の具体的な内容が全くわからないので、内容を明確にしていきたい。  
 ・毎年のことだが、保護者の評価が低い。一方で、現場では評価が高いので、どのように保護者へ伝えていくのか。また、最近では校内で宿題を終わらせることもあると思う。家で宿題をしないことも関係があるのかもについても聞いてみたい。  
 ・保護者評価との乖離は、学級懇談会、授業の場等で実態を説明し、保護者・児童と話し合いし最適解を見つけながら「トライ&エラー」で取り組み改善してほしい。  
 ・学習指導に関して、保護者の理解を深め、不安を取り除くためには、学校や家庭での学習の様子がわかり、子どもたちに基礎基本が着実に身につく、内容をよく理解している保護者が実感できることが必要である。そのような状況が整えば、保護者アンケートの評価もよくなるだろう。  
 ・学校からの情報発信も大事だが、保護者がこの情報を目にしたリ、子どもたちの声に耳を傾けているのか、問題のように思う。  
 ・AI時代を生き抜くために、「読み書き」の読解力を鍛えていく仕組みをお願いしたい。

・低学年は自分の意見を口に出すというのは難しく感じるので、道徳の教科書をもとに親子で話し合う時間があればよいと思う。  
 ・保護者のアンケート「家庭で、子どもと一緒に道徳教材を読む機会はありましたか」では、「否定的」な評価が「27%」を占める。学級懇談会などの場を活用し、保護者と話し合いの場を設ける等し、取り組めない要因の抽出と対策を作り、トライ&エラーで取り組み解を見つけたい。  
 ・家庭や地域との連携に関して今までは70%以上だったのが本年度63%。保護者にどのように興味をもってもらうか、改善の方策にもあるように家庭でも取り組みやすい課題の提示が鍵になると思われる。  
 ・少数の方々の親子での意見交換されたのを、他の親子にも知ってもらうようにするの、家庭での取り組み一つになっていくように思う。

・昨今ではSNSの普及もあり、様々な観点から人権が問題視される。気軽に差別投稿に「いいね」しないなど、教える側も多種多様な指導が求められる。  
 ・学校の取り組みに、つながりを意識した有意義な活動ができたように思うとあるが、今後もこのつながりを大切にしていってほしい。  
 ・子ども園からの関係が長く人数も少ないので、他の学校との交流もあってほしい。スマイル学級でのパドミントン大会はとても良い経験につながったと思う。  
 ・保護者のアンケート「子どもと一緒に人権について考える機会がありましたか」では、「否定的」な評価が「37%」を占める。学級懇談会などの場を活用し、保護者と話し合いの場を設ける等し、取り組めない要因の抽出と対策を作り、トライ&エラーで取り組み解を見つけたい。

・定期的な会議や必要に応じてケース会議を開催し多面的な視点から具体的な支援方法の検討を行ったこと、日頃の情報共有の成果が表れているのは素晴らしい取り組みなので、引き続き取り組んでほしい。  
 ・取り組みについて具体的に記述されていて、教職員の皆さんが努力されていることがよくわかる。改善の方策もしっかりとたてられているので、次年度以降も期待できる。

生活指導	○いつでも誰にでも相手を見て気持ちのよいあいさつを習慣化するように継続した指導	児童	○自分から相手を見て気持ちのよいあいさつや返事ができているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は90%)	A	A	・子どもたちから気持ちのよいあいさつができるように、学級担任だけでなく、携わる教職員全員で言葉掛けを行うなどして励行してきた。また、児童会を中心にあいさつ運動や全校放送を通じて、あいさつをがんばっている児童を褒めて伸ばすよう心掛けてきた。課題としては、高学年は肯定的評価が低学年に比べて少し低くなっており、引き続き気持ちのよいあいさつが子ども達からできるように取り組んでいく。 ・アンケートでは高い評価が得られているものの、教職員が捉える児童のあいさつの実態には依然として課題が残る。形だけのあいさつに留まらず、心を通わせる習慣として定着するよう、今後も粘り強く取り組んでいきたい。 ・定期的な会議を通して、月毎に子ども達に関する生活指導の内容を教職員間で共通理解を図りながら指導にあたることができた。子ども達に掃除や挨拶などを意識づけさせることができた。 ・保護者アンケートの結果から、各家庭内であいさつの声掛けをしているのは91%であった。来年度も継続できるように、学級懇談会や学校だよりの等を通じて、保護者に協力を呼びかけていきたい。	○		
		教職員	○子どもにあいさつ・返事・掃除・時間を守るなどの生活を意識させることができたか。 ⇒教職員アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は88%)	A					
		家庭や地域との連携	○子どもたちに、気持ちのよいあいさつをするように声掛けをしたか。 ⇒保護者アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は91%)	A					
防災安全教育	○災害から自らの命を守るための学校・保護者と連携した防災訓練の実施	児童	○災害や日常生活にひそむ危険から、自分の身を守る方法を知っているか。 ⇒防災・安全に関するアンケート(3学期実施)の正答率80%以上の児童が全校生の8割以上を達成する。⇒(2025年度は98%)	A	A	○			
		教職員	○「明日に生きる」や道徳教材等を使って、自他の命を大切に指導を継続できたか。 ⇒年度内における指導を各学年で2回以上は行う。	A					
		家庭や地域との連携	○引き渡し訓練や警報時の引き渡しの際に、円滑に行うことができたか。 ⇒保護者アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は92%)	A					
食育・健康教育	○健康づくりや体力づくりについて意識を持ち、丈夫なからだづくりをしようとする力の育成	児童	○給食を味わって残さず食べたり、体育や休み時間にのびのびと体を動かしたりしたか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。(⇒2025年度は87.0%)	A	A	○			
		教職員	○朝の会や給食、学習等で、望ましい生活習慣(食生活・健康づくり・体力づくり)を意識づける指導をしたり、授業時間を守って遊ぶ時間を確保したりしたか。 ⇒一日一回以上、指導したか。教職員アンケートで80%以上を達成する。(⇒2025年度は98.0%)	A					
		家庭や地域との連携	○子どもの健康・体力づくりの取組に理解が得られたか。 ⇒学校での体を動かす活動(外で遊ぶ・体育(水泳・かけ足等))や給食の様子について、家庭で話をしているか。保護者アンケートで80%以上を達成する。(⇒2025年度は81.0%)	A					
教職員の資質向上	○研究テーマ実現に向けた授業実践 ○ふるさと教育の充実に向けた地域との連携の在り方の構築、吉川小独自の教育課程の創造	児童	○児童は学校生活が楽しいと思っているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度91%) ○児童は授業が分かりやすいと思っているか。 ⇒児童アンケートで80%以上を達成する。⇒(2025年度は86%)	A	A	○			
		教職員	○学習者主体の授業づくりのために、教職員間で学び合えたか。 ⇒校内での授業参観を積極的に行い、意見交流する。 ○センター主催の研修会等に積極的に参加することができたか。 ⇒担当である研修会以外に3回以上は参加する。	A					
		家庭や地域との連携	○キャリア教育の充実を図り、地域の産業や公共施設等に向き、ふるさと吉川の取組に積極的に参画することができたか。 ⇒地域のゲストティーチャーを招いての学習計画を年間1本以上行う。	A					
家庭・地域との連携・小中一貫教育	○コミュニティ・スクールを通して、小中一貫教育の推進を図る	HP等	○HP等の随時更新、充実を図ることができたか。 ⇒週に数回ホームページを更新することができた。	A	A	○			
		教職員	○事前案内をできるだけ早い時期に配付し、オープンスクール等の学校行事の出席率を高めることができたか。 ⇒保護者の出席率80%以上を達成する。⇒(2025年度オープンスクール出席率81.5%)	A					
		家庭や地域との連携	○学校運営協議会の各委員等に可能な限り学校行事等へ出席いただく。(一人概ね年3回程度) ⇒オープンスクール・運動会等に多く参加いただいた。	A					